

あぐいしょうしち
安居院庄七

安居院庄七は、二宮尊徳の報徳仕法を広めた功勞者で、寛政元年（1789）に相模国蓑毛村（現秦野市蓑毛）で生まれました。

庄七は、米穀商を営んでいましたが、多額の借金を作ってしまったため、二宮尊徳に借金を申し込みに下野国桜町領（現栃木県真岡市）に向かい、報徳思想を知りました。桜町から秦野に戻った庄七は、尊徳の教えを実践し、家業と村の建て直しに成功しました。

その後、庄七が関西から遠州（現静岡県西部）で布教活動をしたことにより、現在の浜松・掛川方面では、多くの結社が組織されました。明治44年（1911）には、掛川市に大日本報徳社本社が設置されることとなります。今でも庄七は「遠州報徳の祖」として頌徳碑が建立されるなど、彼の遺志が受け継がれています。

大正7年、従五位に叙せられた記念として、秦野市立本町小学校に記念碑が建立されています。



安居院庄七頌徳碑
（静岡県浜松市）



安居院庄七頌徳碑
（本町小学校）



草山貞胤頌徳碑
（秦野市平沢出雲大社）



草山貞胤頌徳碑
（秦野市平沢御嶽神社）

くさやまさだたね
草山貞胤

草山貞胤は、文政6年（1823）に相模国平沢村（現秦野市平沢）で生まれました。草山家は代々、神職を勤めていました。

貞胤は若い時から多趣多能で、特に煙草栽培に興味を持ち、苗の植え方、苗床の研究で成果を上げ、数々の賞を受賞し、秦野煙草の名声を高めました。

貞胤は36歳の時に神職となり、小田原の報徳二宮神社の創建に際しては、自分の財産を処分し、資金を充てるなどして尽力されました。貞胤が71歳のときには、報徳二宮神社の初代社掌に就任しました。

昭和55年に実施された、県史上活躍した「かながわの100人」では、貞胤は報徳を広めた功勞者として、二宮尊徳、福住正兄、安居院庄七らとともに選ばれています。